

# 新しい社会へ向けての Mental Habit

2011年11月11日(金) 日本経済調査協議会 葛西委員会

松田 義幸(尚美学園)

# 今日のテーマ

- ① **UNESCOとOECDの教育理念**
- ② **MRI訪問(1972.1)**
- ③ **ポスト産業社会のMental Habit**
- ④ **「新しい人間、新しい社会」への期待**

# ①

UNESCOとOECDの教育理念

**UNESCO**

**LEARNING TO BE (1972)**

**人間らしく生きることを学ぶ**

**( Quality Of Life:QOL )**

**人間らしい労働**

**( Work Humanization /**

**Quality Of Working Life:QWL )**

# OECD

## Recurrent Time Budget ('70s-)

生涯生活時間の  
柔軟な配分政策

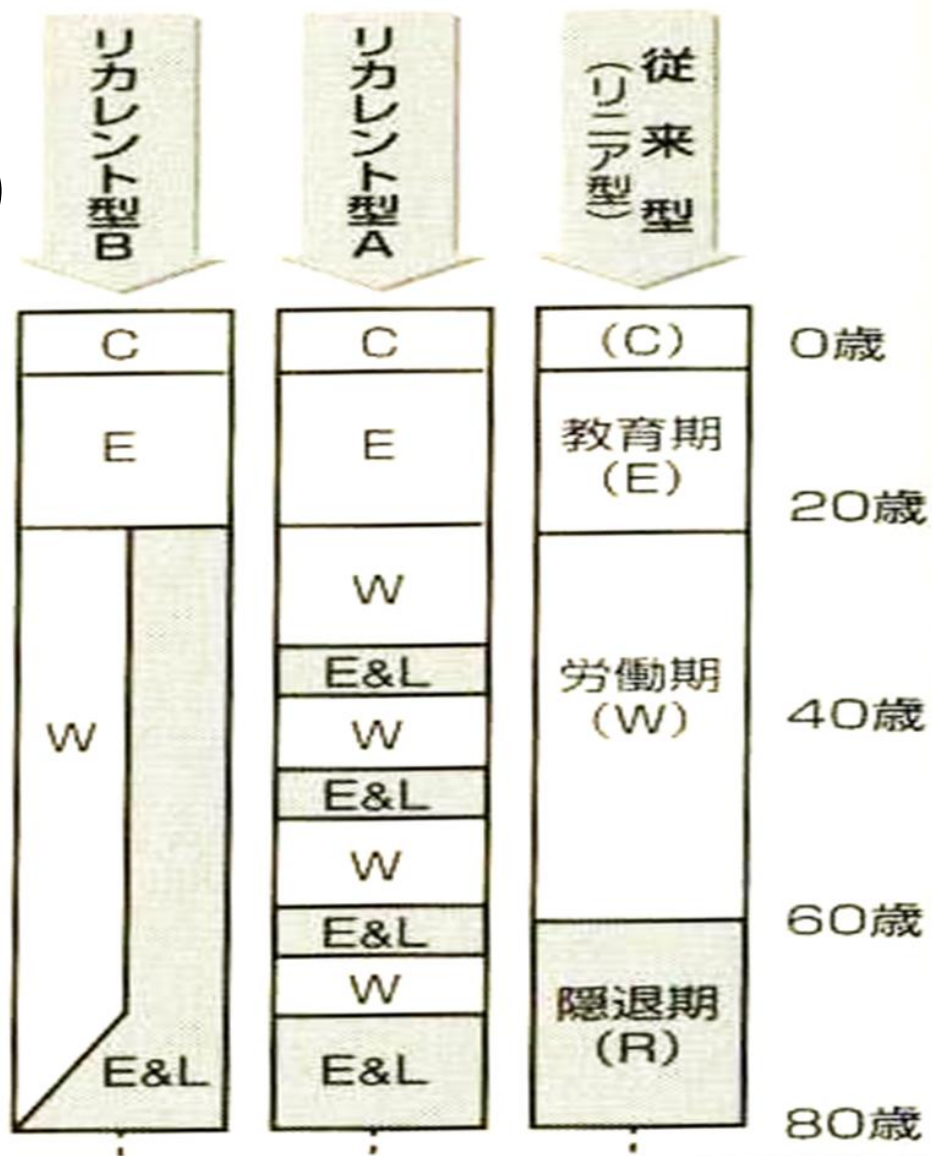
C:Child

E:Education

W:Work

L:Leisure

R:Retirement





**David Riesman 1909 – 2002**

**Daniel Bell 1919 - 2011**

**Pre-Industrial  
Society**

**Industrial  
Society**

**Post-Industrial  
Society**

# 産業社会への警告

ローマクラブ

成長の限界（1972）

R.M.ハッチンス

Learning Society（1968）

②

MRI訪問(1972.1)  
—NIRA立ち上げに向けて—

※米国カンサスシティ  
Midwest Research Institute  
(現MRIGlobal)



**Leisure Project研究の新視点**

**Mental Habit / Habitus Mentaris**

**精神の習慣・心の習慣**

**ある時代、ある社会における、**

**人々に支配的な、**

**ものの考え方・見方・感受性**

**E.パノフスキー『ゴシック建築とスコラ哲学』**

具体例:

イヌイットのMental Habit

雪・氷・冷たさ・寒さ・色・かたち・硬さ・厚さ

についての多様な言語表現

**実在とは言葉の関数**

by ベンジャミン・ウォーフ

# 産業社会のMental Habit

時は金なり / 小人閑居して不善を為す

Work, labor, business, occupation,  
vocation, calling, toil, pain, travail,  
hardship, suffering, difficulty, trial,  
effort, industry, duty, try, earnest  
etc...

# つとめる

**力、働、努、励、孜、職、労、勉、業、  
役、務、強、勤…**

**努力、労働、劳力、劳務、劳役、勉強、  
強力、業務、職務、職業…**

# 産業社会のMental Habit

わたしたちは

働くために生きている

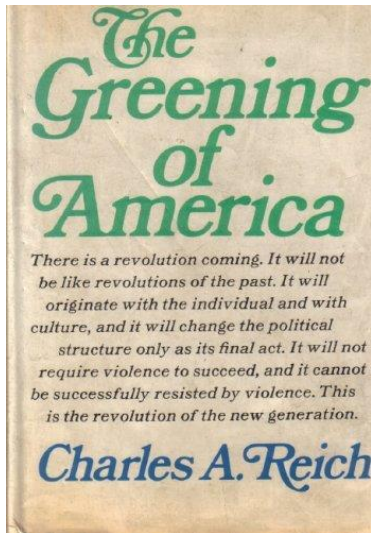


Youth Culture, Counter Culture

自由、解放、人間性回復、自己の探究…

# *The Greening of America* (1970)

Charles A. Reich (1928 -).



## ポスト産業社会のMental Habit

**冒険・旅・セックス・自然・崇敬心・魔術性・  
神秘性・畏敬心・ミュージック・四季の楽し  
み・自己実現・調和・友情・連帯・超越・神  
話・表現の自由・ドラッグ・演劇・映画・解放**

**ウッドストック、イージーライダー、ビートルズ、プレスリー、  
ヒッピー、エデンの東、『ライ麦畑でつかまえて』…**

**東洋のMental Habit、禅のMental Habitへの憧れ**

**若者たちにとって  
産業社会で生きること**

**失業者、失樂園**

# アリストテレスのレジャー論

「一生懸命働くために

**anapausis** (recreation) と

**paidia** (amusement) を求める」

(『倫理学』1176b)



# アリストテレスのレジャー論

「私たちは平和を求めて戦争をするようにschole (leisure) を求めて、  
ascholia (work) に従事しているのだ。」

(『倫理学』1177b)

# アリストテレスのレジャー論

i ) **anapausis** → **recreation**

ii ) **paidia** → **amusement**

iii ) **schole** → **leisure, school**

iv ) **schole** - noble, honorable (教養・全体知)

**ascholia** - necessary, useful (技術・専門知)

※ (G) **schole** → **school**

(L) **licere** → **leisure / license**

③

ポスト産業社会のMental Habit  
余暇開発センターの設立(1972)

# ミヒヤエル・エンデ『モモ』

時間泥棒(産業社会のメカニズム)のセールストーク

時間貯蓄こそ幸福への道  
時間貯蓄をしてこそ未来  
がある

君の生活を豊かにするた  
めに時間を貯蓄しよう

時間は貴重だ

時は金なり 貯蓄をせよ



# 「悠悠閑々」礼賛

十三世紀 中国・南宋の詩人

文天祥

忙裏山我を見る

閑中我山を見る

相似て相似ず

忙は全て閑に及ばず

# 人生80年70万時間

( $24\text{h} \times 365\text{d} \times 80\text{y}$ )

## 生涯労働時間

7万時間 = 人生の1割

$1800\text{h/y} \times 40 \div 7\text{万h}$

## 生涯自由時間

21万時間 = 人生の3割

$70\text{万h} - 7\text{万h} - \text{生理的・必需的時間} \div 21\text{万h}$

# workday vs holiday

holiday → holy + day

holy = whole / health, sound, nature  
perfect, happy, peace

workday → part / productivity, efficiency

busy → business

be occupied → occupation

※(日本においても)忙 = 忘

# 心を生かすか亡うか

i ) 失業者unemployment /

失楽者unemplayment

ii ) シグナル・コミュニケーション→

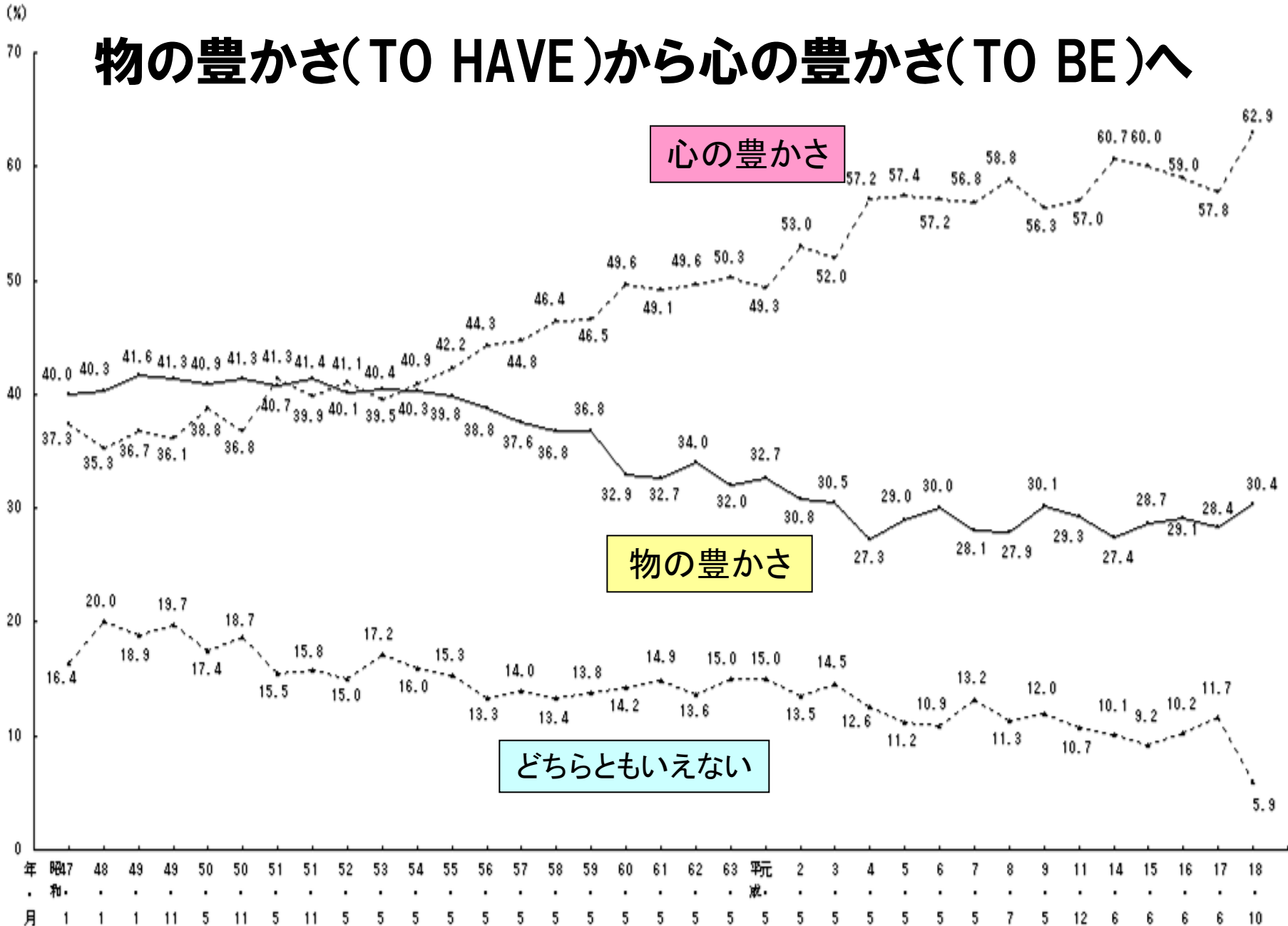
シグナル行動→シグナル人間

iii ) シンボル・コミュニケーション→

シンボル行動→シンボル人間

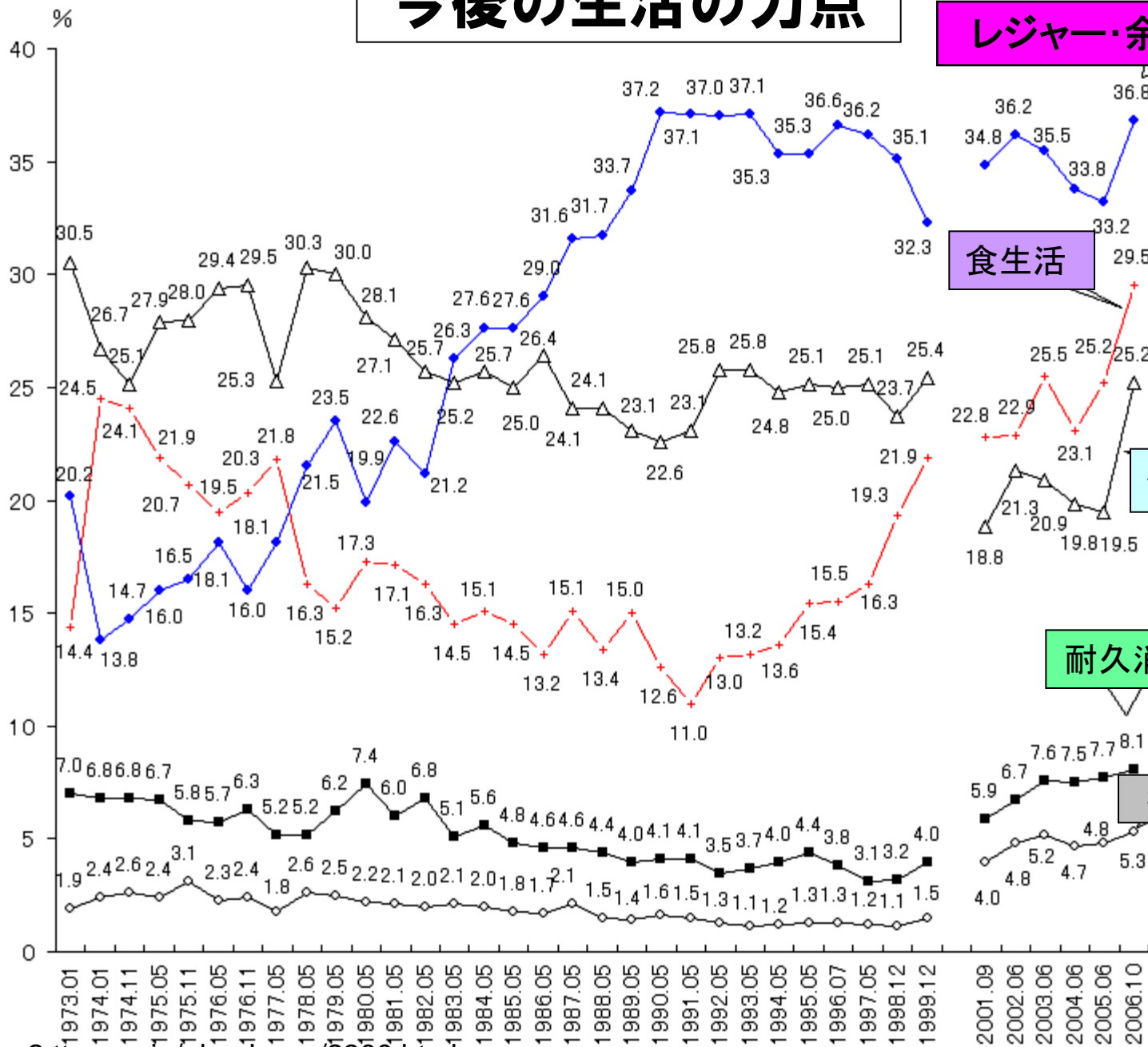


# 物の豊かさ(TO HAVE)から心の豊かさ(TO BE)へ



(注) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」 内閣府 「国民生活に関する世論調査」より  
 物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

# 今後の生活の力点



レジャー・余暇生活

食生活

住生活

耐久消費財

衣生活

# 3世代のMental Habitの変遷

祖父母の時代

「**勤勉-節約**」の価値観…………レクリエーション

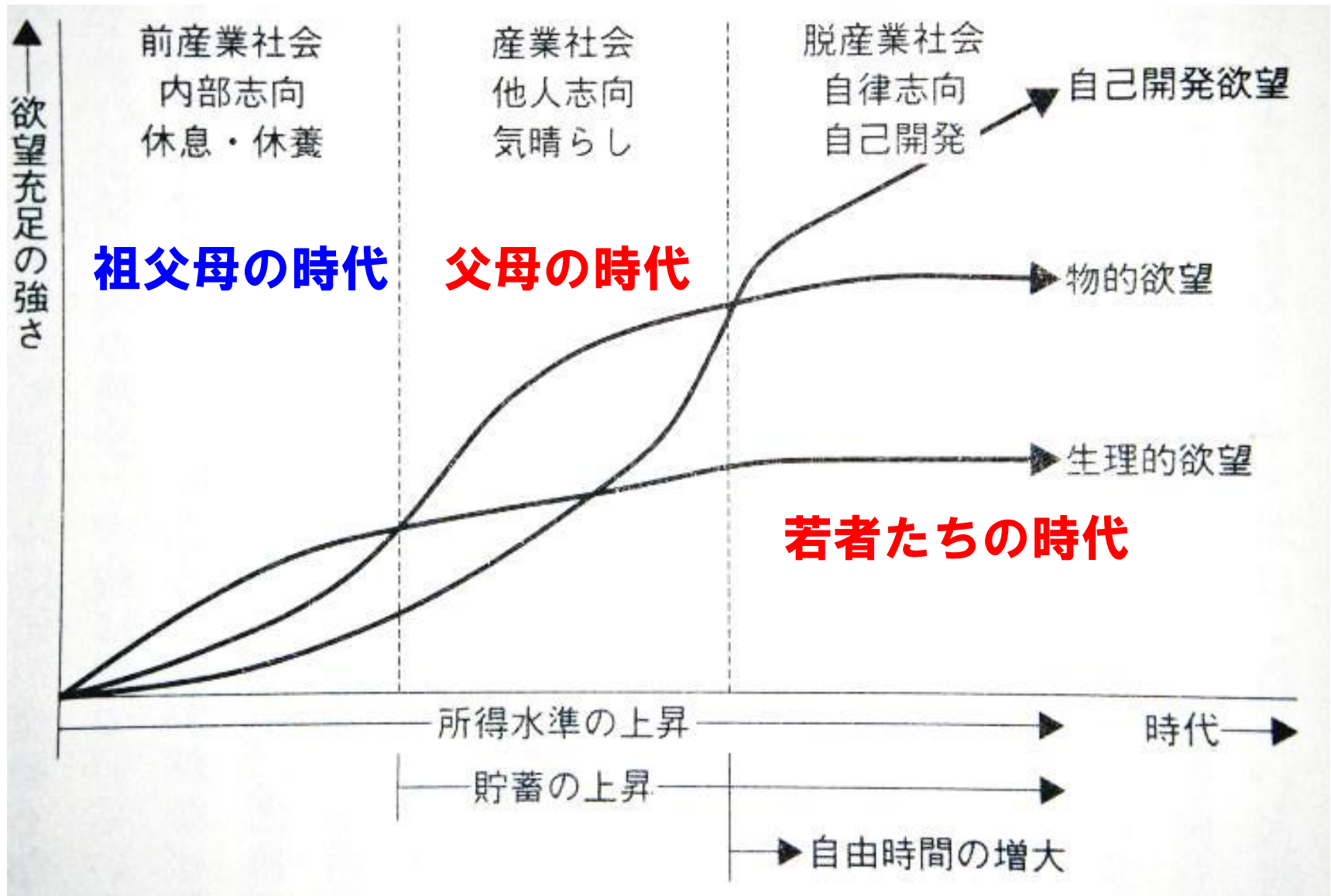
父母の時代

「**所有-消費**」の価値観…………レクリエーション  
+アミューズメント

若者たちの時代

「**存在-自己開発**」の価値観…………レクリエーション  
アミューズメント  
+レジャー

# 欲望の大きな変化



# 第3ステージ「新しい人間、新しい社会」

ステージ	社会類型	ライフスタイル類型	社会経済理論	自由時間の過ごし方
第1ステージ	前産業社会 pre-industrial society	「勤勉－節約」論理 内部志向 & 意識 I 生理的欲望の充足	古典経済学 (invisible hand)	レクリエーション (anapausis)
第2ステージ	産業社会 industrial society	「所有－消費」論理 他人志向 & 意識 II 物的欲望の充足	近代経済学 (visible hand) 近代経営学 “TO HAVE” marketing	レクリエーション ＋ アミューズメント (paidia)
第3ステージ	脱産業社会 post-industrial society	「存在－自己開発」論理 自律志向 & 意識 III 自己開発欲望の充足	New Economics(?) “TO BE” marketing	レクリエーション ＋ アミューズメント ＋ 創造的レジャー (schole)

# ④

「新しい人間、新しい社会」への期待

- a. M.ケインズからの21世紀への手紙
- b. J.K.ガルブレイスの日本社会への提言
- c. ユネスコの21世紀教育政策  
「Learning to be」
- d. R.M.ハッチンスの  
「学習社会 (Learning Society)」

a. M.ケインズの

「わが孫たちの時代の経済的可能性」(1930)

経済の問題よりも、人類の永遠の問題である  
レジャー問題が重要になるであろう。

レジャー生活 > ワーク生活

文化経済学

有効価値 =  $f$  (固有価値・享受能力)



b. J.K.ガルブレイスの  
「日本の再設計－新しい価値観に対応」

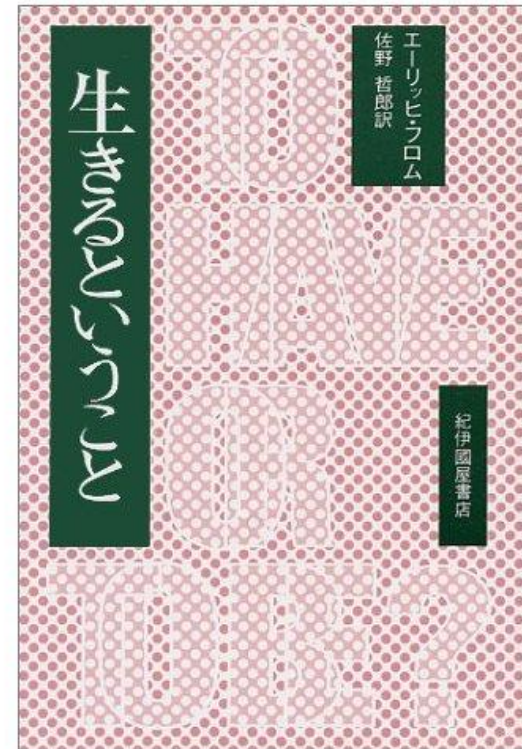
- i ) 経済的成功の意味を問い直すとき
- ii ) Quality of Life の向上－  
スポーツ、芸術、文学、学問、旅行、  
園芸、趣味、生活文化の楽しみ
- iii ) 新しい価値尺度 －  
「生活の楽しみ」「幸福の追求」

# c.ユネスコの21世紀教育政策

i ) 人間らしく生きることを学ぶ  
Learning to be

ii ) To haveの価値観から  
To beの価値観へ  
(by E.Fromm)

iii ) 生涯教育から生涯学習へ



## d. R.M.ハッチンスの「学習社会」 (Learning Society)

i) 教養教育・自由学芸教育の重要性

ii) M.J.アドラーとのGreat Books運動の推進

iii) Great Books, Great Ideas

判断基準－真理 (Truth) 善 (Goodness) 美 (Beauty)

行為基準－自由 (Liberty) 平等 (Equality) 公平 (Justice)

# 知と教養のありかたをめぐって

今道友信 東京大学名誉教授

ひとりの人間としての魂の世話を忘れてはならない (ソクラテスの哲学観)

小宮山 宏 東京大学総長

東京大学アクションプランのキーワード

自立分散(専門知)協調(総合知・教養)系

※生命体モデル

9,000の開設科目と全体像(教養)の調和

# 古典(Classic)に学ぶことの意義

Classicの語源はラテン語のclassicus。国家の危機に際して艦隊(classis)を寄付する富裕な人たち。転じて、classicは人生の危機に際して、精神の力を与える書物や芸術の古典を指すようになった。

今道友信著『ダンテ「神曲」講義』(みすず書房)

# まとめ

- ① UNESCOとOECDの教育理念
- ② MRI訪問(1972.1)
- ③ ポスト産業社会のMental Habit
- ④ 「新しい人間、新しい社会」への期待

資料：

**TO BE OR NOT TO BE  
THAT IS THE QUESTION**

*Hamlet* By Shakespeare

**TO BE OR NOT TO BE  
THERE IS NO QUESTION**

By Daisetsu Suzuki 1959年 ハワイ大学東西哲学会議

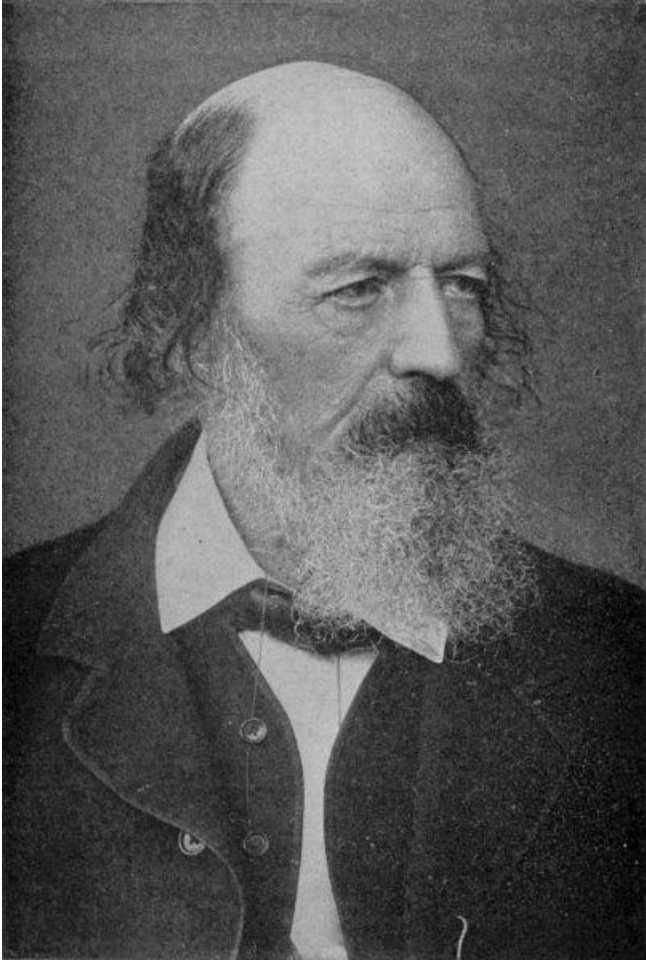


**TO HAVE**

**OR TO BE**

By Erich Seligmann Fromm

# TO HAVE



**アルフレッド・テニスン**

(1809-1892)

イギリス

ヴィクトリア朝時代の詩人

**Flower in the crannied wall,  
I pluck you out of the crannies,  
I hold you here, root and all, in my hand,  
Little flower -but if I could understand  
What you are, root and all, and all in all,  
I should know what God and man is.**

**TO HAVE**

**OR TO BE**

By Erich Seligmann Fromm

ひび割れた壁に咲く花よ  
私はお前を割れ目から摘み取る  
私はお前をこのように 根ごと手に取る  
小さな花よ—もしも私に理解できたら  
お前が何であるのか 根ばかりでなく お前のすべてを  
その時私は神が何か 人間が何かを 知るだろう

(訳 佐野哲郎)

**TO BE**

**松尾芭蕉(1644-1694)**



眼をこらして見ると  
なずなの咲いているのが見える  
垣根のそばに！（訳 佐野哲郎）

**When I look carefully**

**I see the *nazuna* blooming**

**By the hedge!**

translated by E. fromm

原作

**よく見れば なずな花咲く垣根かな**

西行の和歌における、宗祇の連歌における  
雪舟の絵における、利休が茶における  
その貫道するものは一つなり。

しかも風雅におけるもの、造化にしたがひて  
四時を友とす。

「笈の小文」



資料

# 新しい社会へ向けての Mental Habit

2011年11月11日(金) 日本経済調査協議会 葛西委員会

松田 義幸(尚美学園)

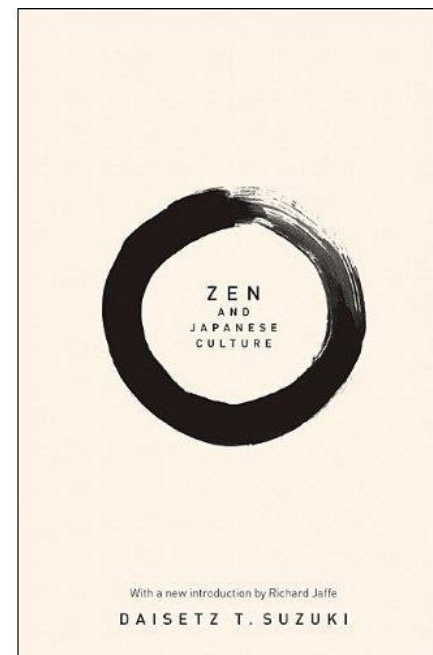
# 鈴木大拙

## 『禅と日本文化』

*Zen and Japanese Culture*

# 西田幾多郎

## 『善の研究』



# 上田閑照先生

## 「鈴木大拙」研究

上田閑照・岡村美穂子著

『鈴木大拙とは誰か』

(岩波現代文庫)



# 禪のモットー 不立文字

真に「伝え難き」もの  
untransmittable

言葉に頼るな  
no reliance on words

# 不立文字を言葉で説明

(はっきりしてよいところははっきりしてみる)

**禅体験**(無分別体得／言葉を絶したところ)



**禅意識**(無分別の分別／言葉になった自覚の意識)



**禅思想**(「禅体験-禅意識」の構造と意義)

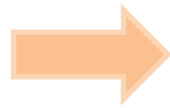
# 禅とは卓子を「ガタガタ」動かすこと

言葉・意識を超越する

禅体験の原初からの自由反復

一級の禅体験

禅と日本文化

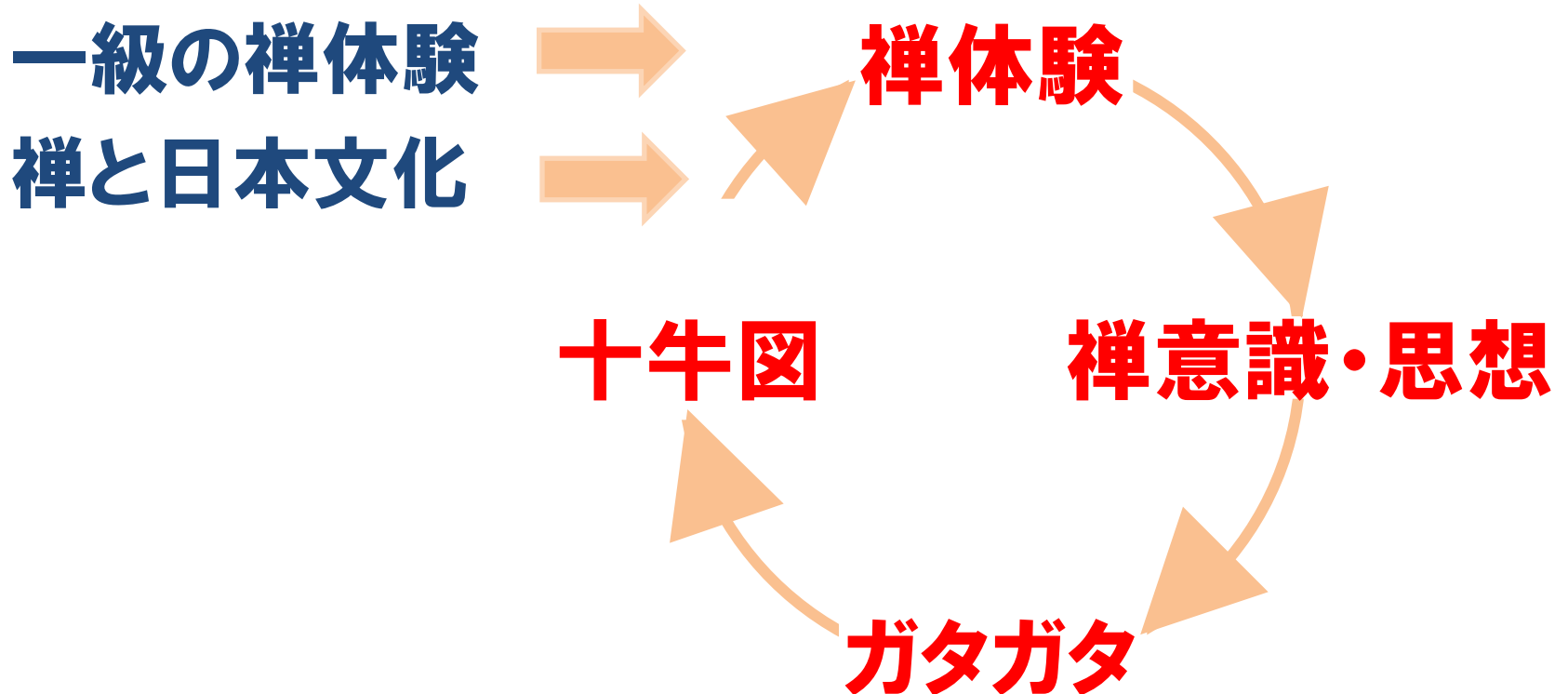


禅体験

十牛図

禅意識・思想

ガタガタ



# 禪とは何か

人間の心の底にある無限の産み出す力

インド仏教



唐代・宋代

中国禪(中国の儒教・道教風土)



鎌倉時代

禪と日本文化(日本の造化思想・風土)

# 日本の見方／日本的「世界内存在」

(造化に従い、四時を友とす by 芭蕉)

自然の中には内面の自由性が入っている  
東洋の自然はものをそのものたらしめる

自然のそのままの受容

物心一如



# 西洋的見方／西洋的「世界内存在」

西洋の考え方は二元から始まる

(科学的機械的進歩 → 自然と対立・征服…)

主観と客観

物と心

有と無

本質と現象

存在と価値

善と悪

美と醜

神と人間

聖と俗

# 上田閑照先生

## 「西田幾多郎」研究

上田閑照著

『西田幾多郎とは誰か』

(岩波現代文庫)



# 世界内存在(In-der-Welt-sein)

—問題としての3つの世界—

生活世界(人生)

歴史的世界(歴史的社会的生)

生死界(境涯)

※( )は上田先生

自己とはいかなる存在か

# 禅と哲学への2つの関心

禅とは何か、哲学とは何か

西田という一人格の場

禅と哲学の双方向の問いの磁場

禅と哲学の動的結びつきの研究

純粹経験の哲学



『善の研究』(41歳、1911年)

# 原始原初の純粹経験

たとえば

色を見、音を聞く刹那・・・

未だ主もなく 客もない（主客未分）

光になり切っている

# 西田哲学 VS

# 西洋哲学

大本の原始原初の  
純粹経験から出発

流派に分れる

ex.

直接的原経験

形而上学

真実在の根底

経験論

真の自己の根源

実存哲学

⋮

⋮

# 純粹経験の自発自展

— 内発的自己展開 —

未分に直接する 「感覚(知覚)」

未分を分節する 「思惟」

再統一運動する 「意思」

全体として観取する 「知的直観」

自己変容循環